

第1問

5 10 15 20 25 30

5 A 朝廷の中央集権化は貫徹しておらず、地方支配は、現地の豪族を郡司に任用して、その伝統的支配力に依存する必要があった。  
 B 8世紀初頭、国司は天皇の代理人として、郡司はこれに従属したが、郡司が地方の実質的支配を行った。その後、徐々に国司の支配力が強化され、従来の伝統的な地方豪族が没落し、国司は独自に新興の豪族を郡司に任用して、地方支配に駆使するようになった。

第2問

5 10 15 20 25 30

5 惣村は、近隣惣村との間で用水を共同利用し、個々の領主に訴え用水施設修繕の費用を獲得するなどした。また、用水を巡る対立の際には、近隣惣村と協力した幕府への訴訟や、地侍層が主導する惣村同士の戦闘などの実力行使、あるいは近隣惣村の仲裁による解決を行うなど、領主の違いを超えて連帯し地域全体の利害を調整した。

第3問

5 10 15 20 25 30

5 A 家康と対立する豊臣秀頼が大坂城にあって勢威を保持している状況の下、西国大名が豊臣方に加担した際の水軍力を排除するため。  
 B 当初は大名の水軍力排除が目的として理解されたが、幕末には、家光以来の海禁策の下、外洋航海可能な大船建造を禁じ、大名が対外交易を行い富裕化するのを防ぐことが目的であると理解された。

第4問

5                      10                      15                      20                      25                      30

5 A 繊維産業の急速な発展による女性労働者不足により賃金が上昇した。これにより、賃金労働者である女性の社会的地位が向上した。  
B 1930年代の実質賃金の下降は、昭和恐慌以降の産業合理化や景気回復に伴うインフレによりもたらされた。1960年代の賃金上昇は、高度経済成長下で繰り返された設備投資を伴う重化学工業の発展による労働者不足と、春闘などの労働組合運動によりもたらされた。